

江津の万葉ゆかりの地マップ

制作・発行 江津市観光ボランティアガイドの会 tel.0855-52-0534 (江津市観光協会内)

2023.12月改訂

柿本人麻呂は、西暦700年代の初めに石見の国の初代国司として赴任しました。そして、ここ江津の恵良の里で依羅娘子を娶ったのですが間もなく都へ戻る別れの日が来ました。その時詠み交わした歌が『石見相聞歌』と呼ばれる作品群です。万葉集巻2(131~139)に掲載されています。この相聞歌群には、江津市周辺の地名が6箇所歌枕として詠み込まれています。今も、石見には人麻呂が生きた約1300年前とさほど変わらぬ風景が残っており、訪れる人を古代の相聞歌の世界に誘います。

② 辛の崎の歌碑 (昭和62年建立)

揮毫者: 元京都大学名誉教授 澤潟久孝 先生
 碑文: 角障経 石見の海乃 言佐徹久 辛乃埼有 伊久里尔曾 深海松生流 荒磯尔曾 玉藻者生流 (万葉集 巻2 135)

訳: つのさはふ 石見の海のことさへく 辛の崎なる 海石にそ 深海松生ふる 荒磯にそ 玉藻は生ふる



③ 二宮交流館の歌碑 (平成10年建立)

揮毫者: 元京都女子大学名誉教授 清水克彦 先生
 「依羅娘子生誕伝承の里」裏面には地元山藤朝之氏の揮毫で人麻呂の死を知った依羅娘子がその悲しみを詠んだ歌2首が刻まれています。



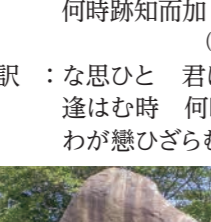
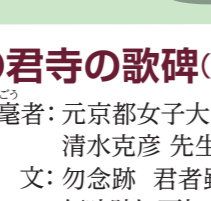
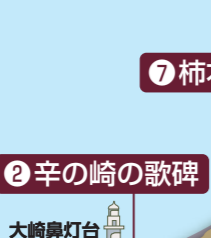
④ 郡庁仮国庁跡

人麻呂の職場があったと伝う地。大化の改新により全国に国・郡・里の制がおかれた。人麻呂が石見の国に赴いた頃には国庁舎がまだなかったため、一時期、恵良の郡庁を仮国庁としたとある。



① 角の浦

渡津・江津・嘉久志・和木・角本郷・宇屋川・波子の七浦を言います。大崎鼻灯台より江津の万葉展望。



依羅娘子・人麻呂の妻
 人麻呂の石見での妻といわれる。地元恵良の里長の娘で、教養と美貌を兼ね備えた女性で、今でも地元の人には「恵良姫さん」とよぶ。人麻呂と出会ったのは10代半ば過ぎであったといわれ、人麻呂との別れを詠んだ歌一首と、人麻呂の死を知って詠んだ歌二首が万葉集に残る。

高神の丘 (平成5年建立)
 揮毫者: 元京都女子大学名誉教授 清水克彦 先生
 碑文: 勿念跡 君者雖言 相時 何時跡知而加 吾不恋有牟 (万葉集巻2 140)

訳: な思ひと 君はいへども 逢はむ時 何時と知りてか わが戀ひざらむ



⑦ 柿本神社の歌碑 (昭和44年建立)

揮毫者: 元大阪大学名誉教授 犬養孝 先生
 碑文: 石見乃也 高角山之 木際従 我振袖乎 妹見都良武香 (万葉集 巻2 132)

訳: 石見のや 高角山の 木の際より わが振る袖を 妹みつらむか



歌碑は、柿本神社境内にあります。

⑧ 真島

真島の岩頭に立つと北に日本海、南に眼前の和木地区の赤瓦の屋根の向こうに高角山(島の星山)が望めます。「和木海岸の真島の岩山にあがると…(中略)当時の石見の海の荒涼とした海景は 彷彿とそこにうかび出る感がある。」



歌碑は、柿本神社境内にあります。

⑨ 人丸神社の歌碑 (昭和48年建立)

揮毫者: 元九州大学教授 高木 市之助 先生
 碑文: 石見のや 高角山乃 木のまより わかふる袖を 妹みつらむか (万葉集 巻2 132)



歌碑に隣接して、人丸神社があります。

⑩ 高角山公園 展望台の歌碑 (平成24年建立)

揮毫者: 奈良女子大学名誉教授 坂本信幸 先生
 碑文: 笹の葉は み山もさやに さやげども 我は妹思ふ 別れ来ぬれば (万葉集 巻2 133)



公園内の高手に、日本海に注ぐ江の川と屋上の山を望む展望台がある。

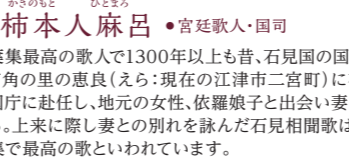


⑬ 樟道駅 (人麻呂渡し)

古代山陰道の駅の一つで金田町にあったと言われる。近くには人麻呂が大河「江の川」を渡った所とされる「人麻呂渡し」の標柱が見える。

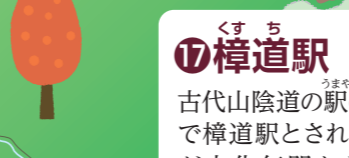


別名: 室神山、浅利富士、高仙
 「…屋上の山の雲間より 渡らふ月の惜しけども…」 (万葉集 巻2 135)



⑭ 屋上の山(室神山) (標高 246m)

別名: 室神山、浅利富士、高仙
 「…屋上の山の雲間より 渡らふ月の惜しけども…」 (万葉集 巻2 135)



⑮ 江東駅

古代山陰道の駅の一つで松川町八神にあったと言われる。



⑯ 高角山

都濃(角)の郷にある高い山のこと。人麻呂が高角山と詠んだ。標高470m/別名: 島の星山、星高山



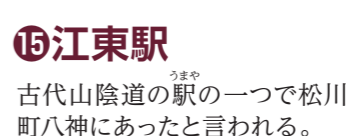
⑰ 靡けこの山の標柱

「…(略)妹が門見む 靡けこの山」人麻呂の長歌の一節です。古代人は、山を精霊の宿る神秘的の地と見ていました。その神々のこもる不動の山(高角山)に向かって「靡けこの山」と叫んだのです。



⑰ 樟道駅 (人麻呂渡し)

古代山陰道の駅の一つで金田町にあったと言われる。近くには人麻呂が大河「江の川」を渡った所とされる「人麻呂渡し」の標柱が見える。



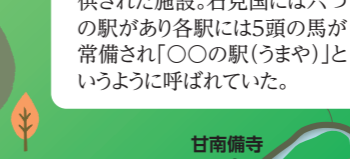
⑱ 江東駅

古代山陰道の駅の一つで松川町八神にあったと言われる。



⑳ 高角山

都濃(角)の郷にある高い山のこと。人麻呂が高角山と詠んだ。標高470m/別名: 島の星山、星高山



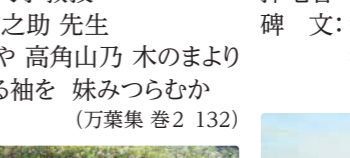
㉑ 靡けこの山の標柱

「…(略)妹が門見む 靡けこの山」人麻呂の長歌の一節です。古代人は、山を精霊の宿る神秘的の地と見ていました。その神々のこもる不動の山(高角山)に向かって「靡けこの山」と叫んだのです。



㉒ 樟道駅

古代山陰道の駅の一つで樟道駅とされているが大化年間から平安初期頃までは松川町上津井にあったと言われている。



㉓ 高角山

都濃(角)の郷にある高い山のこと。人麻呂が高角山と詠んだ。標高470m/別名: 島の星山、星高山



㉔ 人麻呂と依羅娘の銅像と記念碑 (歌碑)

万葉銅像建立実行委員会が高角山公園に設置。銅像は平成18年建立。銅像制作は地元彫刻家 田中俊晴氏。記念碑(歌碑)は、地元書道家 山藤耕子氏の揮毫で、人麻呂の長歌の一節と依羅娘の歌1首が刻まれています。



㉕ 高角山

都濃(角)の郷にある高い山のこと。人麻呂が高角山と詠んだ。標高470m/別名: 島の星山、星高山



㉖ 靡けこの山の標柱

「…(略)妹が門見む 靡けこの山」人麻呂の長歌の一節です。古代人は、山を精霊の宿る神秘的の地と見ていました。その神々のこもる不動の山(高角山)に向かって「靡けこの山」と叫んだのです。



